

自己点検・評価報告書

(理念・目的)

創価大学

(2026年2月)

基準1 理念・目的

1. 現状分析

評価項目① 大学の理念・目的を適切に設定していること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

評価の視点

○大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける大学の目的及び学部・研究科における教育研究上の目的を明らかにしているか。

○理念・目的を教職員及び学生に周知するとともに、社会に公表しているか。

<大学の理念・目的の適切な設定>

本学は、創価学会第3代会長の池田大作先生（以下、「創立者」と記す）により創立され、1971（昭和46）年4月に開学した。当初、開学は1973年を目指して進められていたが、先に開校していた姉妹校である創価高校（東京都小平市）の第1期生の卒業が1971年3月であったことなどを考慮して予定を2年早めて開学した。また、当時の日本社会では、大学紛争が広がり、大学の存在価値や理念の喪失に加えて、その封建的で特権的な体質が問題視されていた。さらに、学生不在の運営、教授と学生の対立など、多くの課題が山積し、「大学改革」の必要性が叫ばれていた。そのような中、創立者は人類益のために貢献し、世界の平和を創造する人間主義のリーダーを育成することで、世界の模範となる大学を築きたい、との思いから本学の創立を決断し、開学を急いだ。

創立者は、開学に先立つ2年前の1969年4月に、本学の基本理念を発表した。すなわち、

一、人間教育の最高学府たれ

一、新しき大文化建設の揺籃たれ

一、人類の平和を守るフォートレス（要塞）たれ

の3つのモットーである。本学ではこの3つのモットーを建学の精神として掲げている。

さらに1971年の開学式には、初めて入学した1期生及び今後入学してくる学生に対し、「英知を磨くは何のため 君よ それを忘るるな」「労苦と使命の中のみ 人生の価値（たから）は生まれる」との指針を贈った。また、創立者は折あるごとに、創価大学は「学生中心」の大学であり、「学生第一」の大学運営をすることを教職員や学生に訴えており、開学から今日にいたるまで、本学の基本精神として堅持し、全学に深く根付いている。

本学では、これらの理念を実現するためこれまで不断の改革を実施し、全学を挙げて目的を完遂しようと努力を重ねてきた。3学部4学科で出発した本学は、現在8学部10学科8研究科を擁する中規模総合大学へと発展を遂げることができた。

建学の精神等を踏まえ、大学・大学院の目的を次のように定めている。

創価大学学則

第1条 本学は、創立者池田大作先生の建学の精神に基づき、学校教育法により、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、全人的な人間形成をはかるとともに、文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。

創価大学大学院学則

第1条 創価大学大学院（以下「大学院」という。）は、創立者池田大作先生の建学の精神に基づき、学校教育法により、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、ひろく文化の進展に寄与することを目的とする。

「建学の精神」と学則に明記した目的を大学の使命として明確にするために、本学では、「創価大学ミッションステートメント」を制定し、広くホームページ等で告知している。

各学部・研究科においては、理念・目的を踏まえ、「人材養成の目的」をそれぞれ定めている。例えば法学部では「人権を尊重し、平和実現のためにたゆまず努力を続ける人材を世界に輩出する」、教育学部では「教育学部は、教育学科、児童教育学科ともに、建学の精神にある人間主義に基づいた学問研究と教育実践を行うことにより、「人間教育とは何か」について探究し、その精神を基盤にして、将来のさまざまな場面における問題を、教育学的・心理学的視点から、高度な知識と技術をもって解決できる人間を育成する」、理工学研究科博士前期課程では「理工学の基礎に精通し、専門能力と柔軟な応用力を有し、建学の精神である「人間主義」を重んじる創造力と国際性豊かな人材の育成を目的とする」（2021年4月改正）などと定めており、建学の精神に沿った目的を掲げている。

以上のように、学部・研究科の人材養成の目的は、本学の理念・目的に連関し、適切に定めている。

点検・評価項目② 大学として中・長期の計画その他の諸施策を策定していること。

評価の視点

○中・長期の計画その他の諸施策は、大学内外の状況を分析するとともに、組織、財政等の資源の裏付けを伴うなど、理念・目的の達成に向けて、具体的かつ実現可能な内容であるか。

○中・長期の計画その他の諸施策の進捗及び達成状況を定期的に検証しているか。

<大学の理念・目的、学部・研究科の目的の適切な明示>

本学の理念・目的は、建学の精神、ミッションステートメント、学則において明示し、学部・研究科の目的は、学則及び大学院学則において明示している。

<大学の理念・目的、学部・研究科の目的の教職員・学生への周知、社会への公表>

大学の理念・目的、学部・研究科の目的等については、大学及び学部・研究科のホームページを通して教職員、学生に周知し、受験生など広く社会に公表している。さらに、教員には『教員ハンドブック』（専任教員）、『出講のしおり』（非常勤講師）や新任教員オリエンテーションなどの機会を通じて、学生には『履修要項』『大学院要覧』に掲載し、周知を図っている。

創立者は、建学の精神に基づいた創価大学の在り方、学生への期待などを、入学式、卒業式、大学祭の記念行事等の各種大学行事において、多くの講演・スピーチやメッセージとして伝えている。それらは『創立者の語らい』という書籍にまとめられ、全24巻が刊行

されている。『創立者の語らい』は創価大学の設立の理念と歴史、そして、大学の理想像を学ぶ自校教育の重要資料として、学生、教職員がより簡易にアクセスできるよう、電子版としても整理し、大学のポータルサイトから閲覧することができる。同書の他、創立者が著した小説、随筆、海外講演、教育提言や対談集などから創価大学について言及されたものを選集し『創立の精神を学ぶ』として発刊している。本書は、本学の共通科目である「人間教育論」の教科書としても使用しており、創立の精神を主体的に学び学生生活に活かすことを図っている。

本学は、2021年に創立50周年を迎えた。この画期に際し、新たな10カ年の中長期計画として、「Soka University Grand Design 2021-2030」を策定し、2020年5月に発表した。

1971年の開学以来、本学は「建学の精神」の実現へ向け、不断の改革により発展を遂げてきた。前回、2010年に発表した「創価大学グランドデザイン」では、「建学の精神に基づき『創造的人間』を育成する大学」を目標に掲げ、「スーパーグローバル大学創成支援」の採択に象徴されるキャンパスのグローバル化、中央教育棟建設をはじめとした教育環境の整備など、およそ10年間の取組みにより、幾多の人材を国内外の諸分野に輩出してきた。

創立50周年から次の10年を目指した「Soka University Grand Design 2021-2030」では、これまでの理念と伝統を重んじるとともに、社会に新たな価値を生み出す大学であり続けるため「価値創造を实践する『世界市民』を育む大学」とのテーマを掲げ、「世界市民教育」、「SDGsの達成」、「多様性あるキャンパスの構築」などをコンセプトとしている。具体的には、4つの戦略分野（教育、研究、SDGs、ダイバーシティ）を設け、「世界市民教育の体系化」「池田大作記念創価教育研究所の事業展開」「国連等の諸機関との連携」「スーパーグローバル大学創成支援事業の継続・発展」などの計画を各戦略分野で策定するとともに、このグランドデザインを推進するため、経営基盤強化策として「中長期財政計画」「キャンパス整備」などに取り組むこととしている。

2010年度の「創価大学グランドデザイン」発表に合わせ、年度ごとのアクションプランである「学長ヴィジョン」（当時は「教育ヴィジョン」）を策定しており、年度ごとに具体的な行動計画を定めPDCAサイクルを回してきた。「学長ヴィジョン」は、その周知徹底のために小冊子を作成し、学生・教職員に配布している。さらに、ホームページや広報誌『創価大学ニュース（SUN）』に掲載し、広く社会に発信している。また各年度の初めに教職員を対象とした事業説明会において、学長自ら「学長ヴィジョン」を説明する機会を設け、その理解と共有化を図っている。なお、2020年度は新型コロナウイルス感染防止のため、事業説明会は中止し、教職員、学生には、ホームページなどで「学長ヴィジョン」を参照するように告知した。

2. 分析を踏まえた長所と問題点

本学では、教職員・学生に対して建学の精神をはじめとする本学の理念を深く周知できるよう様々な工夫を重ねている。

その1つが、『創立者の語らい』電子版の提供である。開学以来の創立者による本学学生に向けた講演等を収録した全24巻の書籍で、本学の教職員・学生が創価大学における設立の理念・目的や歴史を学ぶ資料として活用している。この書籍により簡易にアクセスでき

るよう、2017年9月からは電子版の提供を順次開始した。2019年には『創立者の語らい』を選集し英訳した *The Founding Spirit of Soka University* を電子版で提供し、留学生等にも親しまれている。

また、2020年4月には創価教育研究所を「池田大作記念創価教育研究所」と改称した。当研究所は、創価大学の建学の精神を永く未来に伝えて、創価教育の思想・実践を広く世界に展開することを使命とし、創価教育の思想・実践を研究する基礎資料として、出版物や文書等を収集、保存、管理している。さらに研究所所属の教員を中心として大学科目（共通科目）「創価教育論」を担当し、創価教育の思想、建学の精神を学術的な観点から学生と共に学んでいる。

2010年からの「創価大学グランドデザイン」に基づいた取組みでは、「スーパーグローバル大学創成支援（SGU）」や「大学教育再生加速プログラム（AP）」への採択、中央教育棟の建設、留学生数の増加（2013年度末313名から2019年度末858名）など、着実に成果を上げてきた。特に「スーパーグローバル大学創成支援（SGU）」事業では第1回中間評価（2017年度実施）、第2回中間評価（2020年度実施）で、本学は2回連続で「S」（優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる）評価を受けることができた。そして、2024年度に実施された事後評価では「A」（十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる）の獲得に至った。この事後評価では「アフリカ等を含む広範な地域で交流を維持遂行しており、学生の国際通用性が高まっている。留学生受入れについても、海外拠点や混住型宿舍の整備、交流大学の拡充や奨学金制度など、海外学生をリクルートするシステムが戦略的に機能し、多様な学生が集まっている。」などのコメントをいただいた。

本学は2021年度からの新たなグランドデザイン「Soka University Grand Design 2021-2030」を策定し、2020年5月に発表しており、今後も教育研究の向上に力強く取り組む体制を整えている。

研究面では、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と独立行政法人国際協力機構（JICA）が共同で実施している『地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）』に、マレーシア『微細藻類の大量培養技術の確立による持続可能な熱帯水産資源生産システムの構築（COSMOSプロジェクト）』が採択された（2016年度～2021年度）。また、2017年度に「私立大学研究ブランディング事業」に採択された『途上国における持続可能な循環型社会の構築に向けた適正技術の研究開発と新たな地域産業基盤の形成（PLANE3T）』（2017年度～2020年度）の研究開発を、アフリカ・エチオピアの地で順調に継続している。さらに、前述の『地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）』に、エチオピア『ナイルの源流エチオピア・タナ湖で過剰繁茂する水草バイオマスの管理手法と有効利用プロセスの確立』（2021年度～2025年度）が採択された。これらはいずれも理工学部による提案・取組みであり、これまで私立大学では1つの学部で2つのSATREPS事業に採択された例はなく、本学ならびに理工学部の国際活動への期待ととらえている。

2020年9月には、文部科学省が「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップの策定ーロードマップ2020ー」を策定し、これに、東海国立大学機構が中核機関として本学糖鎖生命システム融合センター（現・糖鎖生命システム融合研究所）と共同で提出した「ヒューマン・グライコーム・プロジェクト」が掲載された。本学「糖鎖生

命システム融合研究所」は、糖鎖異常が関連する希少難治性疾患の克服研究や、糖鎖データベースの確立などの実績が評価され、本プロジェクトに参画することとなった。

以上のように、中長期計画であるグランドデザインや毎年のアクションプランである学長ビジョンに基づいた教育・研究活動が着実に成果を上げていることは本学の長所といえる。

3. 改善・発展方策

本学は、創立者の「人類益のために貢献し、世界の平和を創造する、人間主義のリーダーを育成する世界の模範となる大学を築きたい」との思いから創立され、3学部4学科から、現在は、8学部10学科8研究科へと成長を遂げている。創立者は、大学の創立にあたり、「一、人間教育の最高学府たれ、一、新しき大文化建設の揺籃たれ、一、人類の平和を守るフォートレス（要塞）たれ」という3つのモットーを発表し、それが建学の精神となっている。さらに学生第一の精神で大学運営をすることが教職員、学生に深く根付いている。また、創立者は「英知を磨くは何のため 君よそれを忘るるな」「労苦と使命の中のみ 人生の価値（たから）は生まれる」という2つの指針を開学時に新入生に贈った。これらの指針は、在学中はもとより、卒業後も多くの卒業生が心に留め、実社会で挑戦する糧となっている。

自校教育のため、創立者が大学行事等で発表した各種のスピーチ、講演等を『創立者の語らい』として出版し、電子版での提供も開始している。また『創立の精神を学ぶ』という創立者の著作選集は、共通科目「人間教育論」の教科書としても使用し、創立の精神を学ぶ重要な資料として活用している。

2010年に10年間の中長期計画である「創価大学グランドデザイン」を発表した。この計画に基づき、毎年のアクションプランとして「学長ビジョン」を発表し、年度ごとの具体的な活動計画を発表し、取組みを進めている。その中で、「スーパーグローバル大学創成支援（SGU）」や「大学教育再生加速プログラム（AP）」への採択、中央教育棟の建設、留学生数の増加（2013年度末313名から2019年度末858名）、国際的な研究プロジェクトの推進など、数多くの成果を上げている。2021年度からの新たな10年間の中長期計画として、「Soka University Grand Design 2021-2030」を発表した。この新グランドデザインでは、これまでの理念と伝統を重んじるとともに、社会に新たな価値を生み出す大学であり続けるため「価値創造を实践する『世界市民』を育む大学」とのテーマを掲げ、4つの戦略分野などを定めている。以上のように、本学の理念・目的を実現するための中長期計画及びその他の施策を策定・実行しており、着実に成果を上げている。